

平和への願いをこめて  
**12 / 2 (土) 平和祈念公園で「沖縄県 糸満市植樹」開催**  
500名のボランティアの皆さまと5,300本を植樹

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は12月2日（土）、平和祈念公園にて「沖縄県 糸満市植樹」を行います。

糸満市にある平和祈念公園は、沖縄本島南部に位置し、摩文仁の丘陵と美しい海岸線に囲まれた珊瑚礁台地にあります。同公園内には、沖縄戦の写真や遺品などを展示した平和祈念資料館の他平和の礎・平和祈念像・国立沖縄戦没者墓苑や慰霊塔などがあり、国内外から多くの人々が訪れ平和を願う象徴的な場となっています。また、2017年7月には、公園内にレクリエーションゾーンがオープンし、自然観察ができる散策路やピクニックを楽しめる広場なども整備され、家族連れなどでにぎわっています。

今回の植樹は、同公園が緑に親しみ緑に憩い、緑を学ぶ場そして平和への願いを新たに作る場として、いっそう親しまれることを願い開催します。当日は、ガジュマルをはじめ南国独特の豊かな植生をいかした12種類の苗木、合計5,300本を500名のボランティアの皆さまとともに平和への祈りをこめて植樹します。

当財団は、今後もいのちあふれる美しい地球を次代に引き継ぐため、植樹活動をはじめとする環境保全活動を積極的に推進してまいります。

記

日 時： 2017年12月2日（土）10:00～11:30  
場 所： 沖縄県糸満市字摩文仁444 沖縄県営平和祈念公園内  
参加人数： 500名  
本 数： 5,300本  
樹 種： カジュマル・クロヨナ・テリハボク・アコウ・ハスノハギリ・ヤマモモ・アカギ・シマグワ・アカテツ・ボダイジュ・ヤブラン・コバテイシ  
計12種類  
面 積： 1,600㎡  
主 催： 公益財団法人イオン環境財団  
協 力： 沖縄県・糸満市・公益財団法人沖縄県平和祈念財団・イオン琉球株式会社  
出席者： 沖縄県 副知事 浦崎 唯昭 様  
（予定） 沖縄県糸満市 市長 上原 昭 様  
公益財団法人沖縄県平和祈念財団 会長 新垣 雄久 様  
公益財団法人イオン環境財団 理事長 岡田 卓也  
イオン琉球株式会社 代表取締役社長 佐方 圭二

以上

## ご参考

### 【公益財団法人イオン環境財団について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や国内外での植樹、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹は、1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計1,144万本（2017年2月末時点）を超えています。（イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>）

### ■植樹活動

#### 沖縄県における植樹活動：2007年～2009年「沖縄植樹」

イオン琉球株式会社（旧 琉球ジャスコ株式会社）30周年記念事業として植樹を実施しました。現在のクリーンセンター施設がある一帯は、戦前は緑豊かな森でしたが、戦時中の艦砲射撃等で焼け野原となり、その窪みの一画がゴミ処理場として利用されていました。しかし、その役目も終わったことから、地域の方々の憩いの広場として生まれ変わるために「緑化推進」が計画されました。当財団は、その活動に賛同し、3年間にわたり3,491人のボランティアの皆さまとともに、30,000本の植樹を実施しました。

2008年 沖縄植樹（那覇市最終処分場跡地）



### その他の植樹活動

各国政府や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森を再生させることを目的として、日本はもとよりアジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。2016年度は、国内では千葉県千葉市、北海道厚真町、宮城県亶理町、大分県竹田市にて、海外ではカンボジア・プノンペン、ミャンマー・ヤンゴン、中国・北京市密雲、ベトナム・ハノイにおいて植樹活動を行いました。2017年度は、国内では北海道厚真町、福島県いわき市、宮城県亶理町、大分県竹田市、千葉県千葉市、沖縄県糸満市平和祈念公園にて、海外ではカンボジア・プノンペン、ミャンマー・ヤンゴン、ベトナム・ハノイ、中国・北京市密雲において植樹活動を実施します。



2017年 ミャンマー・ヤンゴン植樹



2017年 福島県いわき市植樹

### ■助成 環境活動助成事業

1991年より26年間「生物多様性の保全と持続可能な利用」のため、国内外の地域において、積極的に環境保全活動を継続している団体への助成支援を行っています。2016年度は、植樹、森林整備、砂漠化防止、里地・里山・里海の保全、湖沼・河川の浄化、野生生物の保護絶滅危惧生物の保護などを行う団体99件に9,797万円の助成を行いました。累計では2,744件、総額24億9,700万円となりました。2017年も継続して環境活動への助成を実施します。



NPO法人しろい環境塾ドングリ工作 (千葉)

### ■顕彰 生物多様性アワード

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞 (国際賞)」と「生物多様性日本アワード (国内賞)」の2つのアワードを創設し、隔年で顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2016年度は第4回「生物多様性みどり賞 (国際賞)」を実施し、2017年度は、第5回「生物多様性日本アワード (国内賞)」を実施しました。



第5回「生物多様性日本アワード」受賞式(国連大学)

### ■環境教育

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする、「アジア学生交流環境フォーラム (ASEP)」を実施しています。2017年度は、「生物多様性と再生」をテーマに、王立プノンペン大学(カンボジア)、清華大学 (中国)、インドネシア大学 (インドネシア)、早稲田大学 (日本)、高麗大学校 (韓国)、マラヤ大学 (マレーシア)、ベトナム国家大学ハノイ校 (ベトナム)、チェラロンコン大学 (タイ) の8ヶ国、合計64名の学生が参加し、8月1日~6日の期間、日本で開催しました。



第6回ASEP開講式 (早稲田大学大隈講堂)

2017年10月13日 (金) には、王立プノンペン大学 (カンボジア) にて、国際的な視野で生物多様性の価値を問い直し、新たな価値共有ができる教育を行うことを目的とした「生物多様性を越えて2017」を開催しました。また、2018年1月20日 (土) には、東京大学安田講堂にて、地球の環境変化や環境問題について、参加者とともに解決方法を考える「第2回イオン未来の地球フォーラム」の実施を予定しています。



第2回生物多様性を越えて  
(カンボジア王立プノンペン大学)



第1回イオン未来の地球フォーラム(東京大学)

再生可能エネルギー活用の分野では、啓発・普及、および環境教育を目的に、国内外の小中学校へ「太陽光発電システムの寄贈」を2009年から行っています。2016年度までに、日本、マレーシア、ベトナム、中国の合計40校に寄贈しました。2017年度は昨年に引き続き、中国武漢市の小中学校5校を対象に寄贈しました。



2017年太陽光発電システムの寄贈(中国・武漢)

### ■沖縄県における公益財団法人イオン1%クラブの活動について イオンチアーズクラブ全国大会(2012年から継続中)

各地区で実施した「イオンチアーズクラブサミット(年間の活動報告会)」で選ばれた50クラブが、北海道と沖縄に分かれて集まり、各クラブの学習成果を発表し合い、一緒に自然体験プログラムを楽しみます。

この大会は日々の生活で触れることができない自然環境の中で、その土地ならではの体験プログラムを通じて、チアーズメンバーの新たな気づき(日本の自然の多様性、自然のめぐみへの感謝など)、環境問題への関心を育む場とすることなどを目的としています。



2017年 沖縄大会の活動風景

### 高校生太平洋・島サミット(2012年5月)

太平洋の島国15ヶ国の首相と大統領が集まり意見交換を行う「第6回太平洋・島サミット」が名護市にて開催されました。このサミットにあわせ、沖縄県の代表的「エコアイランド」である宮古島では、各参加国の高校生30名と日本の高校生32名が一堂に集い、環境をテーマにディスカッションし、相互理解や友好促進を行う「高校生太平洋・島サミット」が開催されました。本サミットを特別協賛として支援しました。



2012年 高校生太平洋・島サミット in 宮古島